稲作

営農情報

生育に応じた適期の中干しと、いもち病防除の徹底を!

1. 分げつの発生を促進する水管理と適期中干し

目標数量確保のため、引き続き分げつ発生を即す水管理を行い、６月下旬には目標の茎数を確保して下さい。

※ここ数年は、幼穂形成期が早まっているため、早期に茎数を確保し、幼穂形成期にはしっかり湛水管理が出来るようにしましょう。

【分げつの発生を促進する水管理】

○分げつ発生は昼夜の水温温度差が大きい場合に促進されます。そのため、浅水管理を行い水温と地温を高めて日較差を大きくします。ただし、田面が露出しないように注意して下さい。

【適期の中干し】

○下図を参考に、６月下旬までには70株植えで21本／株、60株植えで25本／株を確保し中干しを開始しましょう。

○中干しは、無効分げつを抑え玄米の品質・収量の向上が期待できます。また、根を強く張らせることにより高温対策にもなります。中干しは稲の生育にとってとっても重要な部分になりますので適期に実施し、適期に終了できるようにして下さい。

○溝切りはその後の管理もしやすくなるので、出来る限り実施しましょう。

〈茎数と中干し時期・程度の目安〉

㎡当たり茎数	中干し開始時期	中干し・溝切り	中干し後の管理
450本／㎡程度 ○21.2株／㎡ （坪70株）の場合 →平均茎数 21本／株 ○18.2株／㎡ （坪60株）の場合 →平均茎数 25本／株	○450本／㎡以上 →直ちに中干し ○450本／㎡下回る →浅水管理や間断かん水で茎数確保	○中干し期間 （７～10日程度） ○軽く亀裂が入り、足跡がつく程度 ○溝切りの実施	溝切りを活用した間断かん水の実施

2. いもち病防除（オリゼメート粒剤の散布）

初期の発病を抑えることは、その後の葉いもちの発生や穂いもちの伝染源を減少させます。葉いもち防除として箱施用剤や側条施用剤を使用していない場合は、６月15日頃（６月12～18日）にオリゼメート粒剤を10ａ当たり２kg散布します。湛水状態で散布し、散布後４～５日間は入水せず、７日間は落水や掛け流しをしないでください。

補植用余り苗は、いもち病が発生しやすく周辺ほ場への強力な伝染源となります。
ほ場に放置されている苗が散見されますので、直ちに泥に埋めて処分して下さい。

3. 斑点米カメムシ類対策

○現在までの発生状況

秋田県防除所のすくい取り調査では、アカスジの越冬世代幼虫の初確認日は全県平均で５月５日（平年５月27日）、アカヒゲの越冬世代幼虫の初確認日は全県平均で４月17日（平年５月５日）といずれも早くなっています。５月は気温が高く、降水量は平年並みで、今後の斑点米カメムシ類の発生時期は平年よりかなり早くなっています。

今後の対策として、農道・畦畔、休耕田等の除草を早めに地域でまとまって行うことが必要です。今後、世代を経過するごとに発生量が多くなるおそれがあるため、水田除草剤を適期に使用し、取りこぼしがあった場合は後期除草剤を散布するなどして、アカスジの水田内への侵入原因となるホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエの除草を確実に行ってください。

来月のあなたの運勢（2024年７月）

牡羊座（3・21～4・19）　家族と過ごす時間を大切に。レジャープランは気合いを入れて。華やかなスポットにツキがあります。おしゃれも吉

畑作

白神ねぎ

○長ねぎ栽培について

病害虫が発生しやすい時期となります。圃場を確認しながら適期防除に努めましょう。

【病害】

本格的な梅雨入り前の「べと病」防除を忘れずに!!

リドミルゴールドＭＺ、フォリオゴールド、レ―バスフロアブル、ユニフォーム粒剤など

※近年はさび病も見られますので要注意。

軟腐病・白絹病の予防について

薬散の仕方

・軟腐病 → オリゼメート粒剤（通路へ散布後土寄せ）

・白絹病 → モンカット・モンガリット粒剤など（土寄せ後株元へ）

【害虫】

今後気温が高くなれば、害虫の発生が多くなるので注意。

・ネギハモグリバエ

・ネギアザミウマ

※害虫の食害痕が軟腐病の原因にもなり得ます!!

※薬効が切れる前に粒剤による追加防除を行いましょう!!

→ 夏ねぎ1回目防除

６月下旬 → 夏ねぎ2回目防除、秋冬ねぎ1回目防除

６月中旬（梅雨入り前）のべと病予防を忘れずに!!

※近年は「さび病」も多発しますので要注意。

白神山うど

○山うど栽培について

【植え付け後の管理】

・除草を兼ねて定期的に畝間部分を中耕し、雑草を抑えましょう。

・６月中旬から下旬（草丈で50～60cmの頃）に除草を兼ねて畝間部分を中耕し、１葉目が隠れる程度に培土します。

・７月上旬～中旬に除草を兼ねて２～３葉目が隠れる程度に培土します。
極端に多く培土するとのぼり芽が多くなるので注意して下さい。

・中耕・培土を行う際、生育の悪い場合は追肥用化成（Ｓ646など）でＮ成分３～５kg／10ａを追肥して下さい。

・大雨等で湿害を受けやすい圃場では明渠を掘るなど排水対策を実施し、なるべく湿害の影響を抑えられるようにしましょう。

白神みょうが

○みょうが栽培について

根茎腐敗病対策として、ユニフォーム粒剤をまだ散布していない方は収穫30日前まで散布して下さい。

10ａ当たりの散布量は18kg、使用回数は２回までとなっていますので、使用量、使用時期、使用回数に注意して、雨降り前に散布して下さい。

白神きゃべつ

○きゃべつ栽培について

コナガ･アオムシ等の防除については、より高い防除効果を得るためには、若齢幼虫期からの防除を実施しましょう。

また、菌核病については前年に発病が見られた圃場では、結球始期からの予防に努めましょう。

【コナガ･アオムシ】

ハクサップ水和剤	1000倍～2000倍（収−前日）
コテツフロアブル	2000倍（収−前日）
フェニックス顆粒水和剤	2000倍～4000倍（収−前日）

【菌核病】

トップジンＭ水和剤	1000倍～1500倍（収−3日前）
アフェットフロアブル	2000倍（収−前日）
オンリーワンフロアブル	1000倍～2000倍（収−前日）

牡牛座（4・20～5・20）　予定は前倒しで進めましょう。下旬は暑気払いプランを計画。生活にめりはりをつけるとより充実。メモの習慣が◎